

入選

こんなに嬉しいのは久しぶりだ

北海道 屯田北中学校 2年 小山 ひかる

3年生の引退をひかえた陸上大会が、2日間にわたってありました。その大会で私は、四種競技と走り高跳びの2種目に出ることになっていました。1日目は四種競技で、結果はあまりよくありませんでした。2日目の走り高跳びのために、早く休もうと思いつながらバス停へ行くと、多くの人が並んでいて、私たちのあとに並んだ人たちは乗れそうにありませんでした。

私はこのバスに乗らないと、次のバスまでかなり待たなければなりません。ゆずるべきなのか考えていると、1年生がすっと列からずれ、

「歩いて帰ります。先輩は乗ってください。」

と、ゆずってくれました。1年生も一日疲れているのに、さらりとこんなことができるなんてすごいなあと思いました。その姿を見て、次は自分の番だと思い、1年生といっしょに歩いて帰ることにしました。

帰り道も1年生はまわりに気を配り、私はすっかり感心していました。すると前に、大きな荷物を持ったおじいさんがフラフラと歩いていました。そのとき、自分も誰かのために動くことができると思い、声をかけました。おじいさんはありがとうと言って私に頼ってくれました。

荷物を運んでいる途中、1年生も手伝ってくれたし、おじいさんもずっと笑ってたくさんお話をしました。するとおじいさんが、

「こんなにうれしいのは久しぶりだ。こうやって笑ったり話したりできてすごくよかった。本当にありがとう。」

と私たちにたくさんお礼を言ってくれました。私は、今日初めて会っただけなのに、こんなにありがとうと言ってくれることに驚きました。1年生を見ると、自然と笑っていて、自分もほおがゆるんでいることに気づきました。

そのあと、家に着くまでみんなと自分たちのとった行動について話しました。全員「喜んでくれてよかった」「ありがとうって言われてうれしかった」と言っていました。私は、ありがとうのひとことでお互いがうれしくなることを改めて実感しました。この先私たちは感謝する場面がたくさんあると思います。そのたびに私は、しっかりと相手に向けて「ありがとう」と言っていきます。